感染症情報　11月21日～27日

府下小児科201医療機関（堺市19）から

①感染性胃腸炎	2587例（堺市	142例）
②溶連菌感染症	393例（堺市	21例）
③RSウイルス感染症	383例（堺市	21例）
④おたふくかぜ	350例（堺市	20例）
⑤みずぼうそう	129例（堺市	3例）

が報告された。

感染症報告数は前週より0．5％増の4，192件であった。報告の第1位は感染性胃腸炎で以下、溶連菌感染症、RSウイルス感染症、おたふくかぜ、みずぼうそうの順であった。

1位の感染性胃腸炎は府下で前週比3％減、堺市では同4％増であった。当科周囲では先週頃から大流行している。2位の溶連菌感染症は府下で前週比2％減、堺市で62％増であった。RSウイルス感染症は府下で16％増、堺市で40％増であった。4位のおたふくかぜは府下で5％増、堺市で31％減であった。

インフルエンザは府下で前週比50％増の402例が報告され、堺市では前週27例→今回42例で56％増であった。報告定点あたり1．3となり、インフルエンザ流行期に入った。マイコプラズマ肺炎の報告数は府下では前週30例から今週19例に、堺市では前週8例であったのが、2例に減った。流行性角結膜炎（はやり目）は府下で前週31例から今回21例になっている。

麻疹や風疹の報告はなかった。